

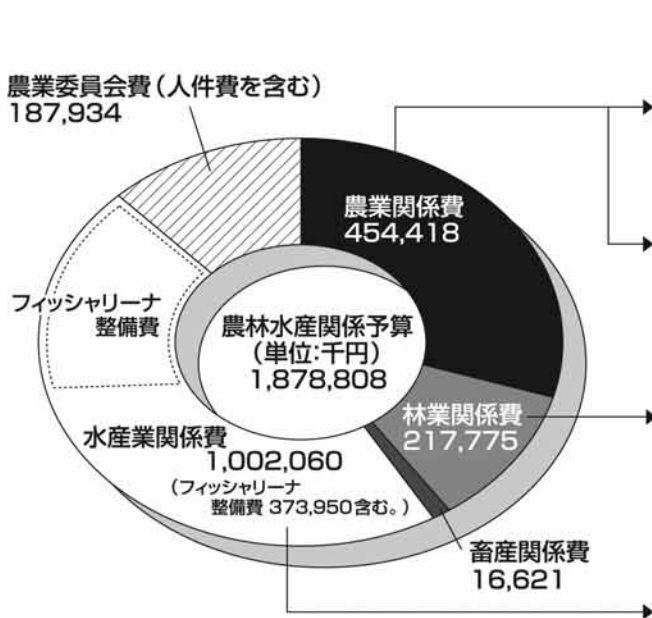
北九州市 KITAKYUSHU CITY

農林水産だより

平成23年 夏号
No.185

No.1109011F
北九州市産業経済局
農林水産部農林課
電話 (093) 582-2078

平成23年度農林水産関係予算の概要と主な事業



- 主な事業**
鳥獣被害対策事業
 野生鳥獣(イノシシ、サル)による市街地被害や農作物被害等を防止するため、市民からの相談受付体制を強化するとともに、追払いやワナによる捕獲を実施します。
- 地元産食材ブランド力強化事業**
 本市で生産される農林水産物について、知名度の向上や大都市圏でのブランド力強化を図るとともに、市外からの来訪者に対する「地産地食」の促進に取り組みます。
- 放置竹林対策事業**
 隣接した森林・農地等への侵入など、環境への悪影響が問題となっている放置竹林について、県のモデル事業を活用して整備を実施します。
- 漁港・フィッシャリーナの整備及び里海づくりの推進**
 市内の漁港施設の整備やフィッシャリーナの整備を進め、漁村地域の活性化を図ります。また、豊かな水産資源と生物多様性を持つ沿岸海域を実現するため、藻場や干潟の再生、漁場整備、魚介類の放流などを行う「里海づくり」を推進し、安全・安心な水産物を市民に供給するとともに漁業経営の安定化を図ります。

「地産地消ガイドブック」 作りました!

北九州市は大都市でありながら、海、山、大地から四季折々の新鮮な食材が届く恵まれた街です。この自慢の食材や地産地消の良さを、多くの皆さんに知ってもらいたいとの思いで、この度、「地元を食べよう北九州地産地消ガイドブック」を作成しました。

今後は出前講演などのテキストとして活用していく予定で、各区役所、出張所等にも設置しています。



市内に「はかた地どり」 の生産拠点完成

このたび、福岡県のブランド肉用鶏「はかた地どり」を生産する農業生産法人の関連会社である(有)福栄ファームが、八幡西区大字金剛に新しく鶏舎2棟(912㎡)を建設しました。5月20日に初めてのヒナが導入され、現在8,400羽が飼育されています。年間24,000羽の出荷を計画しており、最初に「はかた地どり」として出荷されるのは8月中旬頃の予定です。





～ 農の宝石箱 ～ 「農業体験農園」って何？



◆農地の新たな活用が始まる！

春号で、開園時の様子を掲載した北九州市内初の3つの「農業体験農園」。今回は、この新しいスタイルの農家経営を、さらに詳しく紹介するため、その1つである、若松区有毛の「ねいちゃ一村の農業体験農園」園主の青年農業者・天野克寛さん(36・写真右)にお話を伺った。



◆3年後には黒字に!!

経営について尋ねると、「3年後には初期投資分を回収し、この農園単体で黒字にできるつもりです。」と前向き。

さらに「入園者は門司区や小倉北区、岡垣町からも来ており、農業に興味のある市民は相当多いと感じています。」と需要の増加も見込む。

今後は、区画の増設や、他所での開園も視野に入れているという。

◆ここは畑のカルチャースクール!?

15～30㎡ほどに区切られた畝(うね)がずらっと並び農園で、今育っているのは、きゅうり、ミニトマト、大根、ブロッコリー、スイートコーン、枝豆など。

ここは区画を貸すだけの市民農園とは違い、園主の立てた栽培プランにそって、入園者が作付けから収穫までの一連の農作業を行う市民「体験型」農園だ。

現在23区画あって、ほぼ契約済み。料金は面積により年間3万円～5万円だ。

◆志があるなら応援します!

現在、全国に広がる農業体験農園。今年3月、北九州市内にも、3つの農園が開園した。このタイプの農園は「農園利用方式」と呼ばれ、農地(区画)を貸すのではなく、あくまで農家経営の一環として行われるため、通常、特別な許可は必要ない。

とはいえ、どこの畑でもできるわけではなく、手間や収入の面から、少なくとも20以上の区画がとれて、入園者が車で安全に来やすいところ。さらに近隣には駐車場やトイレなどの施設も必要だ。

「体験農園の経営は情熱とエネルギーのいる仕事。誰にでもできるとは思わないが、志があるなら応援しますよ。」と園主からのメッセージ。

◆ただものではない栽培プラン!

この栽培プラン、天候はもちろん、作業時間や収穫時期など、入園者が楽しく効率的に作業できるように工夫されたオリジナルとのこと。

「あーでもない、こーでもない、と、実際ものすごく悩みましたね。」

そんな園主は、土作りや、種苗・農具・肥料の準備、植付け講習会や日々の技術指導までこなすが、水やりや除草、整枝、収穫など日常の農作業は入園者にまかせ、ほとんど手を出さずに見守るスタイルだ。

◆取材を終えて～

市民にとっては、「実はやってみたい」農業を手軽に体験できるチャンス。

農家にとっては、農地の新たな活用方法であると同時に、経営改善の一つの手段となりうるのでは?

市は間接的なお手伝い(広報誌への情報提供等)しかできないが、「農」の魅力を知る市民がもっと増えてくれれば、と強く願う。

◆コミュニケーションが命。

「失敗して枯れることもあるかもしれないが、自分で土を触り、雑草を抜く、全てが喜び。失敗も含めて体験してほしい。」

今年度は30品目ほど栽培する予定で、入園者は丹精こめて育てた野菜を収穫して持ち帰れる。

入園者は日が落ちるまで自由に畑に入れるが、園主は常に畑にいるわけではないため、携帯電話や掲示板など様々な方法で、コミュニケーションを図り、気持ちよく農作業ができるように心を配っているという。

気になるのは、大雨や台風などの自然災害のために収穫できなかった場合だが、園主によると、利用料金の一部を返金する規約があり、万が一のトラブルにも備えているとのこと。



転作田等の「現地確認調査」へのご協力を!

農業者戸別所得補償制度に加入する方の水田は、北九州市水田農業振興協議会で、必要に応じて作付状況等の現地確認をいたします。実施時期は、7月中旬から8月上旬です。個別の日程は農事組合長会議等でお知らせしますので、調査へのご協力をお願いします。

◎3月に提出していただいた実施計画書(申告票)に、転作田等の申告漏れや変更があれば、早めにお近くの農協までご連絡ください。

◎農業者戸別所得補償制度に加入されて転作等を実施している方は、現地確認予定日の前日までに、転作田等に立て札を立ててください。

環境保全型農業直接支援対策が始まります!

国は、環境保全に効果の高い営農活動を支援するため、23年度から「環境保全型農業直接支援対策」を創設しました。この対策は、農業振興地域内の農地で、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を行った場合に、10a当り4,000円を上限に国が交付金を支払うものです。さらにその同額を、県と市で合わせて交付できるように調整しています。(合計最大8,000円/10a)

交付要件は、

- ① 農業振興地域内農地での実施
- ② 農業環境規範に基づく点検実施
- ③ 対象作物でのエコファーマー認定取得
- ④ 対象作物での農薬と化学肥料の5割低減実施
- ⑤ 環境保全のための取組(メニューから選ぶ)実施
- ⑥ 対象作物の販売

を全て満たす必要があります。

本市では、小倉南区、若松区、八幡西区の約50haの水田で「5割低減+カバークロップ」(水稻+れんげ)に取組む予定です。

西部地区の「レンゲ減減栽培研究会」代表の柴田英雄さんは、「消費者に安心・安全な米を提供するために日々頑張っています。環境保全型農業に取組んでいくことで余分にかかる経費を、この事業で少しでも緩和できればありがたいです。」と笑顔で語ってくれました。

来年度からの参加を検討していただける方は、JA及び東部・西部農政事務所にお早めにご相談ください。



約5haで取組み予定の大庭喜重さん
「レンゲ減減栽培研究会」代表の柴田英雄さん



ため池についてお願い



★ため池に入るのはやめましょう。

水遊びのシーズンとなりましたが、ため池での水遊びや魚釣りは、大変危険です。水難事故から子どもの尊い命を守るため、保護者、農家の皆様、地域の方々には、子どもがため池に入らないよう、事故防止についてのご協力をお願いします。

★ため池の点検を行いましょう。

ため池は農業用水だけでなく、洪水防止やさまざまな生物の生育場所、さらには防火用水の水源など、多面的な役割を担う地域の大切な施設です。

しかし、施設が壊れると、下流にある農地や公共施設、住宅等に被害を及ぼす危険性も持ち合わせています。

管理者の皆様には、定期的な点検や見回りをお願いします。



お米づくりを通して地元産品の良さを伝えます

市内ホテルの従業員がお米づくりを体験

八幡東区の千草ホテルのみなさんが、5月30日、小倉南区山本で田植えを体験しました。これは、ホテルで使用するお米を調理師をはじめ従業員で実際に作ってみようというもので、千草ホテル、北九州農協、小倉南区の農家と協力して地産地消を進める取り組みです。

お客様と接するホテルのみなさんが、実際に田植えや稲刈りなど農作業を体験することで、食と農への理解をいっそう深め、お客様に料理とともに生産現場の情報を伝えていくことにしています。

田植えは初めてという人も多く、田んぼのぬかるみに足をとられながらも、「お客様に自分たちの作った食材を届けたい」という意気込みも聞かれました。

今後は、7月に生育状況の確認、9月下旬に稲刈りを行い、10月上旬にはホテルで新米の披露を行う予定です。



門司区大里柳小学校5年生が田植えを体験



6月8日(水)、東部農政事務所が行っている「わくわく農業体験」の一環で、大里柳小学校5年生の児童63名が門司区大字恒見の水田で田植えの体験をしました。

田植えの指導をしてくれたのは門司区恒見の江口一昭さんです。ほとんどの児童が水田に入るのははじめてなので、最初は歩くのも一苦労でしたが、次第に慣れてきて、田植え綱に沿って苗を一生懸命植えていきました。一時間後には約1,000㎡の田んぼの半分くらいに苗を植えることが出来ました。田植えが終っても、「まだ田植えをしたい」と言う児童がたくさんいました。

当日は直前まで雨が降り、暑くもなく寒くもなく田植えが行いやすい天気でした。水田にはアメンボ、オタマジャクシ、イモリなどがいて、児童は目を輝かせて観察していました。

田植えが終ると近くの川で汚れを落としました。残念ながら前日からの雨で水がにごり、魚などの生き物は見えませんでした。児童たちは時間いっぱい自然を楽しむことが出来ました。

最後に児童たちのお礼の言葉を聞いた江口一昭さんは「植えただけでなく、自分の植えた稲の生長も見に来てください」と言っていました。

大里柳小学校では稲刈もする予定で、秋には夏を越して一回り大きくなった児童たちが黄金色に実った水田の中で稲刈をする様子が見られることでしょう。



今日の授業はいちごハウスで。先生は“いちご作り名人!”

～特別支援学校
いちご収穫体験～



生徒に説明をする
渡邊敏明さん(左)、村上定男さん(右)

「おいしい!」「あまっ」「うまーい!」

感激しながら満面の笑みでもぎたてのいちごをほおぼる子供たち。

東部農政事務所では、毎年「地産地消・学校給食推進事業」で特別支援学校の子供たちを対象に、高設ベンチを導入したいちごハウスで「あまおう」の収穫体験を行っています。

ご尽力いただいているのは、小倉南区小森の渡邊敏明さんと、同区貫の村上定男さん。7年目を迎えた今年は、5月24日(火)に渡邊さんのハウスで北九州中央高等学園、6月3日(金)に村上さんのハウスで小倉南特別支援学校が体験しました。

北九州中央高等学園は高等部2・3年生のガーデニング班14人が参加しました。授業で園芸の勉強をしている生徒たちです。初めて入ったいちごハウスで1つ1つ丁寧に収穫した後、いちごの育苗ハウスも見学して、渡邊さんから苗の増やし方や育て方を教えてもらいました。「これから自分たちでも育てていきたい」と目を輝かせていました。

小倉南特別支援学校の小学部4・6年生34人はイチゴ狩りにはやや遅い時期の実施となりました。女の子の1人は「お母さんに持って帰るの」と真っ赤ないちごをうれしそうに摘み取っていました。手も口も、真っ白い体操服もほんのりいちご色、春の味覚を満喫していました。

実施日に合わせていちごをよい状態に保つのはご苦労も多いと思いますが、おいしいいちごを収穫し、食べてもらいたいという農家の熱意が生徒にも十分伝わったようです。そして何より子供たちの生き生きとした表情を見つめる“いちご作り名人”の笑顔が素敵でした。

【総合農事センターからのお知らせ】

展示栽培実施中

●野菜

品目	品種	定植時期	収穫時期	栽培の内容
カボチャ	くじゅうくりEX	4月上旬定植	7月上旬	展示栽培
ピーマン	ピー太郎、京ひかり	5月上旬定植	7月上旬	展示栽培
水前寺菜	-	5月中旬定植	6月下旬	展示栽培

●花き

品目	品種	は種・定植時期	開花時期	栽培の内容
トルコギキョウ	ピッコロサスノー、エクロサググリーン、キュートパープル、ピッコロワイン	3月上旬定植	7月上旬～8月上旬	展示栽培
ひまわり	F1 サンリッチオレンジ50 F1 サンリッチマンゴー50 F1 サンリッチレモン50	6月中旬	8月中旬	展示栽培

●果樹

品目	品種	生育状況	収穫時期	栽培の内容
イチジク	とよみつひめ、蓬萊柿、パナーネ、ビオレー・ソリエス	結実中	8月～	展示栽培